



オオハマボウの果実と種子(小笠原諸島)

# まだ見ぬ地へ、思いを 馳せて

いのちを繋ぐ種子のかたち

建築博物教室 第8回 公開ギャラリーセミナー

## 植物のアーキテクチャ

**高山 浩司**(ふじのくに地球環境史ミュージアム 准教授/植物系統進化学)

日時：2015年11月21日(土) 13:30~15:00

会場：東京大学総合研究博物館小石川分館2階「空間標本」展示室

入場：無料(事前申込不要)



# 植物のアーキテクチャ

## 高山 浩司



(左上)樹からぶら下がるヒメモダマの果実(バナアツ)、(右上)ヒメモダマの果実と種子(バナアツ)、(右中)鋭い芒を持つアカエナの種子(チリ)、(左下)タコノキの果実(小笠原諸島)、(右下)樹上で発芽するヤエヤマヒルギの胎生種子(ニューカレドニア)

固着生活の植物にとって、種子や果実などの散布体は、種の空間的広がりをもたらす唯一の媒体です。種子による分散は分布域の維持だけでなく、病原菌からの回避や新たな生育環境の獲得にも重要な役割を担っています。一方で、種子が生育適地に分散されなければ、それはすなわち死を意味し、次世代に命を繋ぐことはできません。種子には、種の繁栄のための巧みな戦略が隠されています。今回は、不思議な形の果実や海を漂う海流散布植物の種子を中心に、いのちを繋ぐ種子のかたちについて考えてみたいと思います。



高山 浩司 (たかやま こうじ)

### 略歴:

- 2001年 東京都立大学理学部生物学科卒業
- 2003年 東京都立大学大学院理学研究科生物科学専攻修士課程修了
- 2006年 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻博士課程修了
- 2007年 日本学術振興会特別研究員
- 2010年 日本学術振興会海外特別研究員
- 2012年 東京大学総合研究博物館特任助教
- 2015年 ふじのくに地球環境史ミュージアム准教授(現職)

### 著作:

『系統地理学:DNAで解き明かす生きものの自然史』種生物学会、2013年(分筆)



ネジレモダマ(タイ)

**東京大学総合研究博物館小石川分館**

〒112-0001 東京都文京区白山3-7-1  
Tel. 03-5777-8600(ハローダイヤル)

開館時間: 10:00-16:30 (入館 16:00 まで)  
入館料: 無料  
休館日: 月・火・水曜日  
(いずれも祝日の場合は開館)、年末年始、その他博物館が定める日  
アクセス: 地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅より徒歩8分  
<http://www.um.utokyo.ac.jp/architectonica/index.html>

建築博物館とは?  
「アーキテクチャ」をテーマにさまざまな分野の研究者が講演を行い、関連した標本を「アーキテクトニカ・コレクション」として展示していくシリーズイベントです。

建築ミュージアム / アーキテクトニカ  
**KOISHIKAWA Annex.**  
**UMUT**  
東京大学総合研究博物館小石川分館